資料７

想定される主な論点例

論点	委員会として議論することが考えられる評価委員会、日本学術会議の課題等
１．日本学術会議への期待、評価委員会としての基本的考え方	
日本学術会議への期待	・日本学術会議の活動への期待。 ➢「政府・社会等に対する提言等」 ➢「科学者間のネットワークの構築（若手アカデミー、地区会議等）」 ➢「各国アカデミーとの交流等の国際的な活動」 ➢「科学の役割についての普及・啓発（フォーラム、シンポジウム等）」 ・日本学術会議の運営、マネジメントへの期待。 ・国民、学術界、行政、国際社会が日本学術会議に期待していると思われること。
評価委員会の調査審議の在り方	・評価委員会が、日本学術会議が行う中期的な活動計画の策定や自己点検評価について調査審議するに当たっての基本的考え方。 ・法人の自主性・自律性を尊重しつつ、どのような観点から意見を述べ、また評価を行うか。

２．「中期的な活動計画」に期待する内容		
総論	策定方法	・策定にあたって求められるプロセス（外部の意見の活用等）
	日本学術会議として 自ら示すビジョン	・どのように会議は自らビジョンを示すか。 ・国民、学術界、行政、国際社会の期待に応えるため、 日本学術会議は今後６年間で何を目指すのか。 ・計画で示すビジョンの国民や世界に向けた発信の在り方。
	成果・アウトカムの考え方	・日本学術会議が業務等に関する目標を設定する際の考え方。 ・自己点検評価において活動の成果をどのように把握するか。 ・学術の向上発達、学術に関する知見を活用した社会課題の解決への寄与を 評価する基準、指標。 ・定量的な目標をどの程度求めるか。 ・目標達成のための措置にはどの程度の具体性を求めるか。

各業務に関する目標並びにこれらを達成するためにとるべき措置	学術に関する重要事項の審議とその実現 （政府からの諮問等に応じた答申や、勧告、声明など科学者としての見解を政府や社会に対し提示等）	・政府や社会に対しての助言や提言に関する具体的な取組の方向性。 ・社会の状況に応じたタイムリー、スピーディな意思表出の在り方。 ・審議するテーマの選定。
	大学、研究機関、学界その他の学術に関係する者の間における連携の確保及び強化 （若手アカデミー活動の推進、地区会議による活動、協力学術研究団体との協力関係の構築等）	・大学、研究機関、学協会等との連携の確保及び強化の在り方。 ・学協会との役割分担。 ・産業界、NGO、NPO等との連携の確保及び強化の在り方。 ・地方での活動の在り方（地方活性化への貢献等）。 ・若手科学者による取組の在り方。
	学術に関する国民の関心及び理解の増進その他の学術に関する研究を円滑に進めるための社会環境の整備 （学術フォーラム・シンポジウムの開催、サイエンスカフェの企画・実施等）	・国民や社会とのコミュニケーションの在り方。 ・意思表出の内容を広く国民に知ってもらうための手段。 ・学術に関する研究を円滑に進めるための社会環境整備に向けた取組。 ・我が国の研究力の強化に向けた取組。
	学術に関する外国の団体及び国際団体との交流 （各国アカデミーとの交流、国際学術団体への貢献、国際会議・シンポジウムの開催等）	・国際学術団体との連携や地球規模課題への貢献の在り方。 ・日本の学術界を代表する機関として果たすべき役割。 ・国際的プレゼンスの向上に向けた取組。

業務運営及び財務内容の改善に関する目標並びにこれらを達成するためにとるべき措置	・効率的かつ効果的な業務運営の実現に向けた取組。 ・外部資金の獲得の計画における位置付け、目標。 ・外国人会員の選任、役員の常勤化など会員・マネジメントの在り方。 ・情報発信機能の強化、透明性の確保に向けた取組。
予算、収支計画及び資金計画	・予算、収支計画及び資金計画に関して求められる記載内容。 ・法人の特性を踏まえた記載事項。
その他	・事務局機能の強化の在り方（専門人材の確保等） ・人材の確保・育成に関して考えられる方針。 ・施設、設備など活動基盤の整備について考えられる方針。